**待つことで人を助け続けた人生でした**

**松助さん、ありがとう**

今日は、お忙しい中を父松助の葬儀にご参列いただきまして、ほんとうにありがとうございました。

父松助は、その名の通り、辛抱強く待つことと細やかな心配りをすることで人を助けることが生きる喜びだったように思います。

若くして両親を失い、家長として4人の兄弟姉妹を守り育てる苦労を引き受け、結婚してからは妻を護り、2人の子どもを育て上げる苦労の中に生きがいを見つけてくれていたようです。

4年ほど前から体調を崩し、寝たきりの生活になっても、看護や介護に訪問してくださる人たちへの心配りを忘れない姿が印象的でした。

最期は食べられなくなってから9日間ほど断食状態の中で命を燃やし尽くすかのように強く輝いていたように思います。バンクーバーから次男が駆けつけ、久しぶりに家族4人がそろった時間の中で、親戚や共に育った地域の縁ある人たちが訪れてくださり、いろいろな思い出話を聞かせていただくことができました。

亡くなったその日は父の誕生日でした。ケーキを作り、「誕生日おめでとう」を歌い、笑顔と涙、日常と旅立ちの非日常がうまく混ざり合った不思議な時空でした。

清拭とエンジェルメイクをしていただいた後でも、その死に顔は柔和で、ほほ笑みを増し続けるように少しずつ変化しておりました。

最期まで、本当に待つことで人を助け続ける松助さんでした。

本日は、ご会葬、本当にありがとうございました。

生前に賜りましたご親切と合わせて感謝し、お礼申し上げます。

平成二八年十二月二十日

喪主　井上くに江、井上松永、井上勝人